アーカイブ室新聞　（2011 年 1 月 21 日　第 414 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊　60m 鉄塔の 4 個目の基礎は撤去されていた

アーカイブ室新聞 164 号（2009 年 4 月 9 日）に「東京天文台三鷹構内にあった 60m 鉄塔の痕跡」という記事を書き、それを皮切りに以下のように 13 号におよぶ 60m 鉄塔についての記事を書いてきた。60m 鉄塔（写真 1）はなかなか興味深い存在であった。

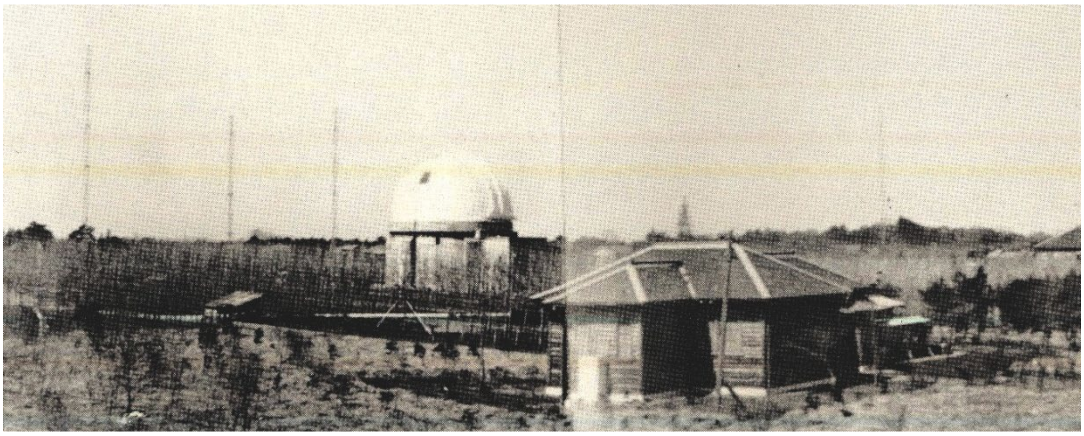


写真 1　昭和初期、東京天文台の南東方向からの光景　60m 鉄塔が 4 本見える

・第 164 号　東京天文台三鷹構内にあった 60m 鉄塔の痕跡（2009 年 4 月 9 日）

・第 172 号　帝国陸軍の戦闘機が引っかかった 60m 鉄塔検証－その 1、写真発見－（2009 年 4 月 24 日）

・第 173 号　帝国陸軍の戦闘機が引っかかった 60m 鉄塔検証－その 2、別の鉄塔からの眺め、陸軍側からの情報－（2009 年 4 月 24 日）

・第 174 号　帝国陸軍の戦闘機が引っかかった 60m 鉄塔検証－その 3、一等三角点上空から写真－（2009 年 4 月 24 日）

・第 177 号　帝国陸軍の戦闘機が引っかかった 60m 鉄塔検証－その 4、ロンビックアンテナが立つ前にあった逆Ｖアンテナ－（2009 年 5 月 14 日）

・第 178 号　帝国陸軍の戦闘機が引っかかった 60m 鉄塔検証－その 5、南端 60m 鉄塔から撮った写真（其一）発見－（2009 年 5 月 15 日）

・第 181 号　帝国陸軍の戦闘機が引っかかった 60m 鉄塔検証－その 6、三鷹時代初期の北からの眺めの写真発見－（2009 年 5 月 20 日）

・第 182 号　帝国陸軍の戦闘機が引っかかった 60m 鉄塔検証－その 7、ついに鉄塔の写っている写真発見－（2009 年 5 月 20 日）・第 191 号　東京天文台 60m 鉄塔検証―その 8、無線報時史の記事による―（2009 年 6 月 5 日）

・第 192 号　東京天文台 60m 鉄塔検証―その 9、フランスのボルドーに向いていた―（2009 年 6 月 5 日）

・第 217 号　東京天文台の 60m 鉄塔の検証 その 10、夜空に見える 60m 鉄塔の写真（2009 年 7 月 19 日）

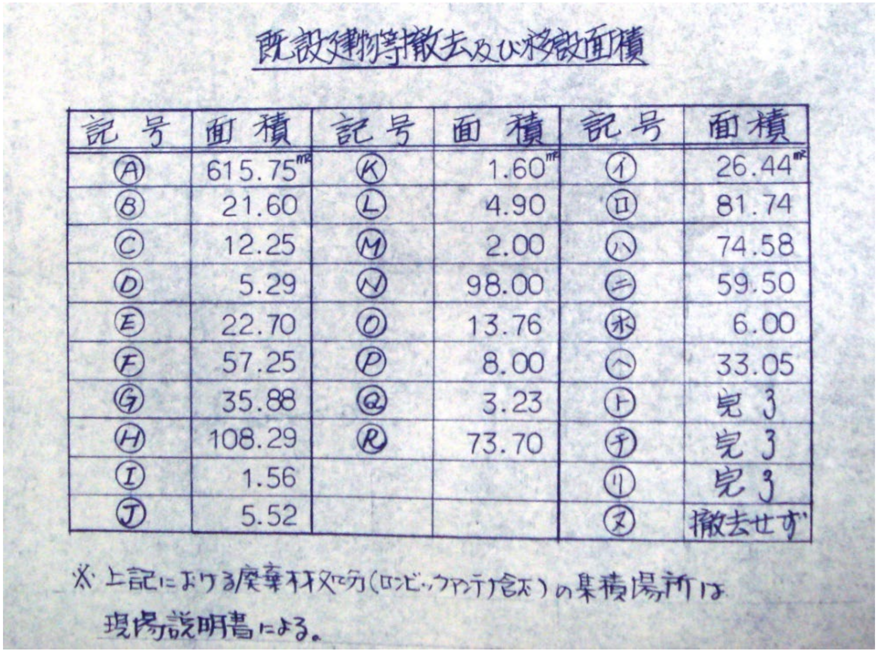
・第 225 号　60m 鉄塔検証－その 11、中央の 60m 鉄塔の痕跡発見－（2009 年 8 月 18 日）

・第 253 号　60m 鉄塔検証－その 12、60m 鉄塔 4 本が記載された図面発見－（2009 年 12 月 2 日）

・第 365 号　旧本館屋根、26 吋ドーム（窓が写っている）、60m 鉄塔が写った写真（2010 年 7 月 20 日）

そして 4 本あったはずの現存する鉄塔基礎の探索を行って来たが、今回非常に残念であるが最後の 4 個目の鉄塔基礎がこの世から失せている確認が出来た。アーカイブ室新聞 164 号は以下のような書き出しから始まっている。「東京大学百年史、部局史三 東京天文台編の 36 ページに以下の文章がある。「三鷹の天文台構内には、大正 12 年（1923 年）文部省測地学委員会によって国際報時所が設置され、同年度末にはその庁舎、職員宿舎および高さ 60m の空中線鉄塔三基(昭和初年に一基増設)や､一辺 100m の菱形測基線が建設された。」ところがこの 60m 鉄塔については、語り継がれていないが非常に興味深い話がある。」

この 60m 鉄塔は昭和 20 年 4 月、帝国陸軍の手によって倒されてしまったのであるが、その痕跡が残っていることを突き止め、3 個まではその痕跡を見つけ、4 個目の発見に努めたが発見に至っていなかった。先日、旧子午線部にいた鈴木君が自動光電子午環の基幹整備工事の図面をアーカイブ室に届けてくれた。それをめくっていると、写真 1 のようなページがあったのである。この表は既設建物撤去であり、60m 鉄塔の基礎が含まれていた。


既設建物等撤去及び移設面積

記号	面積	記号	面積	記号	面積
Ⓐ	615.75㎡	Ⓚ	1.60㎡	㋑	26.44㎡
Ⓑ	21.60	Ⓛ	4.90	㋺	81.74
Ⓒ	12.25	Ⓜ	2.00	㋩	74.58
Ⓓ	5.29	Ⓝ	98.00	㋥	59.50
Ⓔ	22.70	Ⓞ	13.76	㋭	6.00
Ⓕ	57.25	Ⓟ	8.00	㋬	33.05
Ⓖ	35.88	Ⓠ	3.23	㋣	完了
Ⓗ	108.29	Ⓡ	73.70	㋠	完了
Ⓘ	1.56			㋷	完了
Ⓙ	5.52			㋦	撤去せず

※上記による廃棄材処分(ロンビックアンテナ含む)の集積場所は現場説明書による。

写真 2　既設建物等撤去及び移設面積と書かれた表

この表の A は 24m 球面電波望遠鏡、D がまさに 60m 鉄塔の基礎だったのである。この A、D 辺りの図面が写真 3 である。

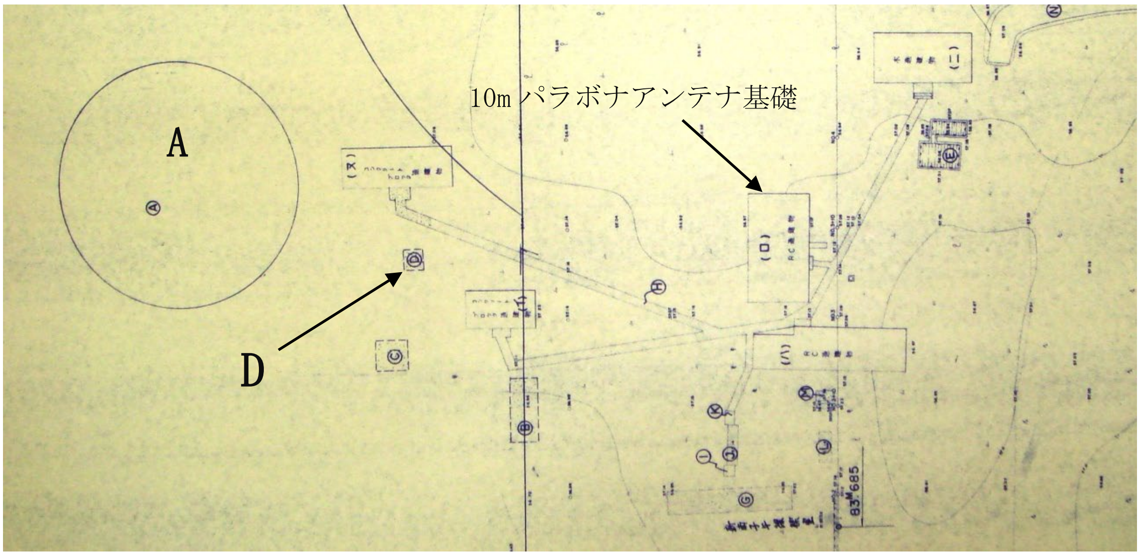


写真 3　昔ノイズと言われた施設があった場所

昭和 55 年当時、自動光電子午環を建設するためにはアーカイブ室新聞 412 号にも書いたように広大な敷地が必要であり、10 万坪の敷地をもつ東京天文台でも、既設の施設を撤去する必要があり、太陽電波の観測の中心が長野県の野辺山に移転し、三鷹の太陽電波観測施設があった場所に建設された。太陽電波関係の建物等がきれいさっぱり撤去されたのは知っていたが、写真 4 の未発見の鉄塔位置付近を探索していたのであった。

今までの 60m 鉄塔の追跡から、まだ見つかっていない 4 本目の鉄塔の位置の目星は付いており、24m 球面電波望遠鏡付近であることは分かっていた。写真 4 が 60m 鉄塔の配置図である。

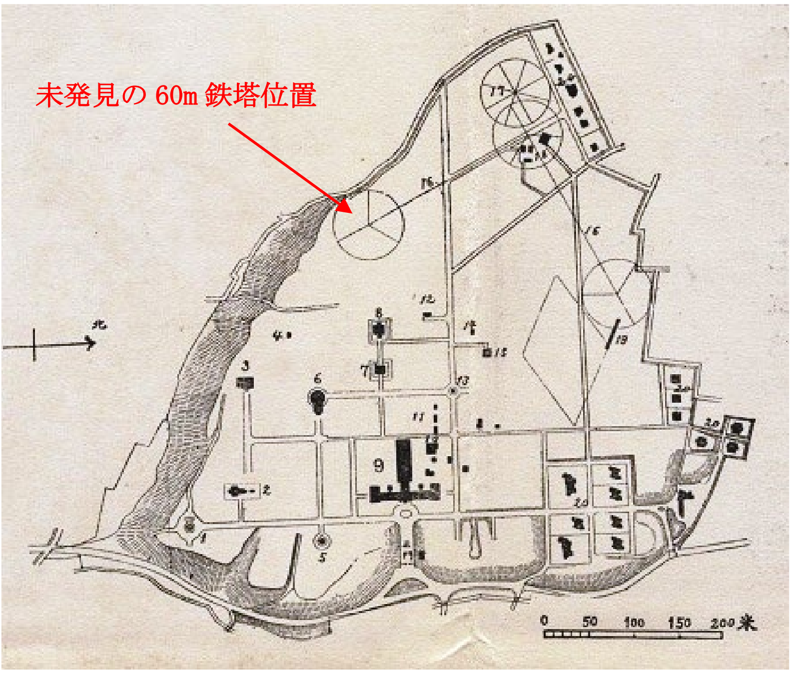


写真 4　60m 鉄塔の東京天文台における配置図

写真 4 の未発見の 60m 鉄塔の基礎を避けるために 24m 固定式電波望遠鏡の位置を西にずらさなければならなかったと建設の中心であった赤羽先生から聞いていた。写真 3 の 10m パラボラアンテナから 24m 固定式電波望遠鏡を写した写真（写真 5）を赤羽先生のところにいた宮沢氏から提供してもらった。この写真には 24m 固定式電波望遠鏡（A）、その手前のコンクリートブロックの建物（ヌ）、その南側の鉄塔基礎（D）、その南側手前のコンクリートブロック(イ)の建物が写っている。この中でなぜかコンクリートブロックの建物(ヌ)は撤去されずに残されている。おそらく工事現場の飯場として利用し、工事後には倉庫として利用できるということであろう。

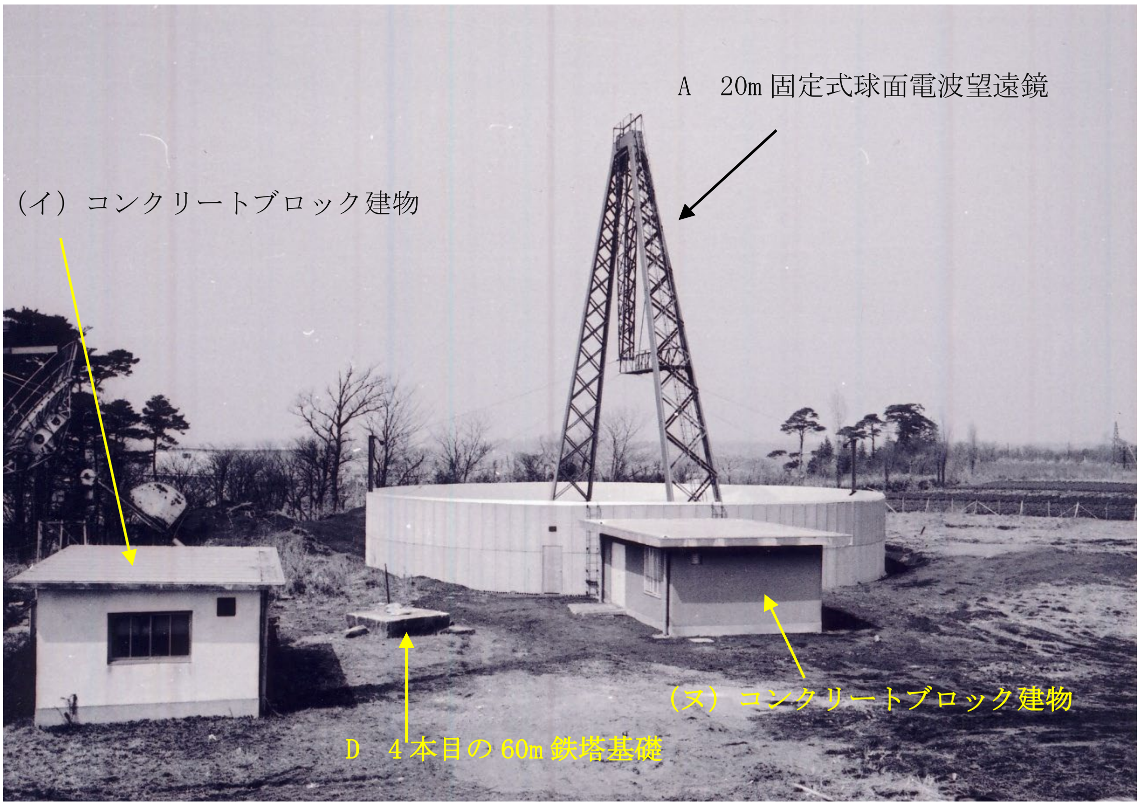


写真 5　10m パラボラアンテナから撮影した光景

筆者は、写真 5 の D 地点の 60m 鉄塔の基礎を探すために先端をとがらせた鉄棒で、残されたコンクリートブロックの建物(ヌ)の地点付近をくまなく突き刺して歩き回って、どうしても発見できないでいた。発見できるはずもない、昭和 55 年には自動光電子午環の基幹整備工事で撤去されていたのである。この 60m 鉄塔の基礎を発見できなかったことがのどに刺さった刺のように何時までも気がかりであったが、残念な形で解決された。

また、今回収蔵した図面には、筆者の若いころの思い出の一つである 5m プール(写真 6)が記載されていた。この 5m プールもどこに消えたのであろうかと何度か探し回った記憶がある。この自動光電子午環の基幹整備で撤去されたものの中にこの 5m プールがあったことが分かった。このプールとして泳いだりしていたものはおそらく防火用水であったろうが、昭和 40 年代初めの頃は、長さ 5m、はば 1.5m 余りの防火用水をプールとして楽しんだので

ある。夏場以外には、この防火用水にフナ、金魚、鯉などを放って釣り堀として遊んだ記憶がある。遠い昔の思い出である。

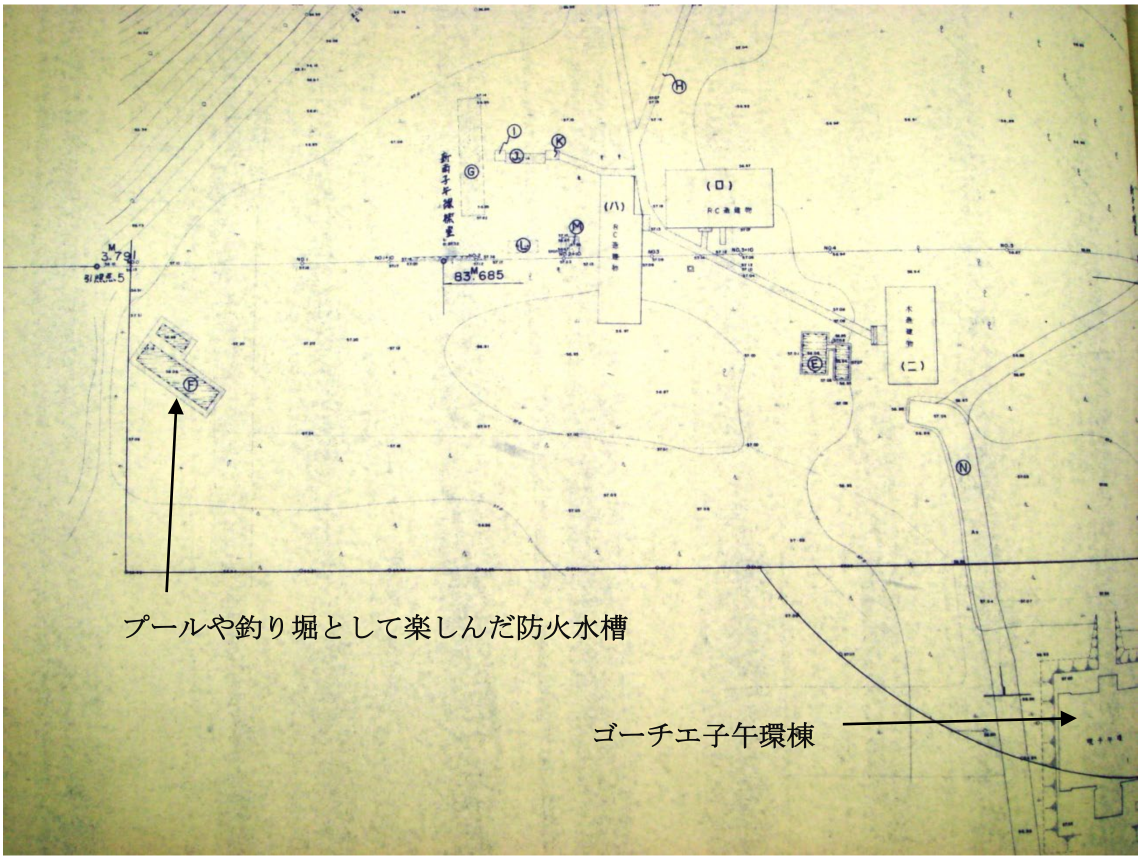


写真６　昔ノイズと呼ばれた施設があった付近